



2008.4

No. 171

MONTHLY

れんごう



<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会 発行責任者 村田 仁
〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

木の城たいせつ労組に多くの仲間が加入

連合北海道 現地相談会、行政要請行

道内大手住宅メーカーである「木の城たいせつ」グループが、3月10日、事実上の破産申立を行ったことに伴い、連合北海道と連合北海道空知地域ユニオンは、各地で全員解雇となった従業員への「木の城たいせつ関連従業員ユニオン」説明会及び個別相談と組合加入手続きを実施し、各会場とも、従業員が不安な面持ちで参加した。

説明会は「木の城たいせつ関連従業員ユニオン」の立ち上げ趣旨と組合員加入の手続きの説明に始まり、労

働債権の確保等に向けての説明がなされ、参加者からの相次ぐ質問に対応した。

また、連合北海道及び連合北海道空知地域ユニオンは、北海道

(3/17)、北海道労働局(3/14)、北海道経済産業局(3/14)に対して、「株」木の城たいせつグループ企業の倒産に伴う労働債権の確保及び再就職対策等に関して、要請・申し入れを行った。



この記事のアドレス

http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0314_kinoshiro_sodankai.html
http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_kinoshiro_info01.html

くみあいニュース1《木の城たいせつ》

[その1 労働組合に493名が加入]

組合では、3月13日の栗山を皮切りに、札幌(15日)、函館(16日)、帯広(17日)、旭川(18日)で説明会を開催した。その結果、従業員の過半数を大幅に超える493名の仲間が加入したので、今後の破産手続きに参加し、皆さんを代表して意見を破産管財人に述べる事が出来ることになった。

[その2 会社側の代理人弁護士と話し合う]

組合では、3月17日、会社側の代理人と協議した。その結果、(1)破産管財人は、来週月曜日に裁判所が選任する見通しであること(2)組合としては、その前に会社と自宅待機中の賃金や貢献度評価の退職金など組合員全員の労働債権について協議、照合し、確定したい旨を要請し、了解いただいた。

[その3 未払賃金立替払い先に要請]

退職金規程では、「退職金は、退職後120日以内に支払う」と規定されているが、未払い賃金の立替払いを行う労働者健康福祉機構では、「……立替払請求の日の前日までの間に

支払期日が到来している「定期賃金」及び「退職手当」であって、未払いとなっているもの」とされているので、労働者の窮状を踏まえて賃金と同様に扱うよう要請した。

[その4 組合側の代理人弁護士は、道央法律事務所の江本、上田両弁護士]

組合では、皆さんの労働債権(賃金、退職金、解雇予告手当、生産性配分etc)を確保するため、連合北海道顧問弁護団の二人に皆さんの代理人となっていていただき、破産管財人との折衝や、労働債権の届出などに取り組んでいただくことになった。

今後は?

会社と折衝し、計算された労働債権額で良いか確認するため、各組合員の皆さんに文書で連絡し、確認されれば一括して組合員全員の債権を組合が破産管財人へ提出する。また、未払賃金立替払い先への届出の準備に入る。

積極賃上げで内需拡大に転換し安定経済を！

全道総決起集会で高柳会長が強調

連合北海道は、本日午後6時から、春季生活闘争勝利全道総決起集会を開催した。北海道厚生年金会館には、仕事を終えた組合員約2,000名が結集して賃金改善と非正規の処遇底上げを意思統一した。

集会は連合がつくった「組合の力があれば 4人からのメッセージ」のDVDから始まった。これは、東京のメッセンジャー業の組合結成やゲーム機修理の深夜労働、女性の均等待遇、不払い残業の一扫に向けた日常活動など、それぞれの実態を通じて労働組合の役割と歴史をわかりやすくまとめたものを集会冒頭に見てもらった。

続いて集会の本題に入り、主催者の高柳闘争本部長は、「6期連続の企業増益の一方で、勤労者は9年連続の賃金低下と諸物価高騰により生活の切りつめを余儀なくされている。政府や経済界の一部も中間層の再興が必要と認めている。いまこそ全力で闘おう」と、この闘いの意義を確認してあいさつした。



また、村田事務局長は、「11月に方針を確認してから、今日からの決戦に向けて準備を進めてきた。この闘いの目標は1.労働分配率の反転、2.時間外割増しのアップ、3.非正規の処遇改善と底上げの3点にある。連合北海道は、これら組合員の労働環境の改善とともに、道内勤労者の代表として灯油など物価問題や医療・道財政の再建など、道民生活安定に関わる要求も行ってきた。きょうのJQ(金属労協)回答を契機に、道内地場相場の形成に向

けて、働く者全てと連帯し北海道における社会正義を実現しよう」と情勢と闘いの提起をおこなった。

さらに決意表明として、初めて民間として闘うJP労組から「春季の取り組みの中で全国1,100名、道内100名の正社員化を実現した。改善1,500円、時給+25円をめざして闘う」と、また、政労連・雇用労から「非正規の増大で公共職業訓練のニーズは高まっているのに政府や道は縮小や廃止しようとしている。雇用のセーフティネットとして、中小の人材育成として、若年者のスキルアップのため、事業拡大こそ国民の要求に沿うもの、UIゼンセン同盟は「今日から山場を迎える。正社員は定昇と1%か+2,500円、短時間は時給と処遇改善を総合的に求めて闘う。」最後に削減に苦しむ地方公務員3者共闘から「道関係の独自削減7.5%、4年間は約束違反であり、実態としてとても厳しい。やむにやまれない北教組のスト処分の撤回を求める。交付税の復元と地方財政の安定には政治における政権交代が必要だ。このままでは北海道がつぶれる」と、それぞれの課題や環境に対し、総力戦で闘う決意が表明された。

最後に「まじめに働く者が報われ、公正・公平・安心な社会を実現することをめざし総力で闘う」と決議を確認し、高柳本部長の団結がんばろうで締めくくった。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/spring/2008/08info_10.html

08 春季生活闘争 経済6団体へ要請

「賃金改善」雇用の安定・確保」など31項目

戦後最大の景気回復といわれながらも、北海道においては失業率・有効求人倍率を見ても実感は乏しい状況にある。非正規労働者が増え、経営側がワークルール・労働法を無視し、または無知なことによる労働相談も増加している。

連合北海道は、08春季生活闘争における闘いの手始めとして、低賃金構造の改善に向けた賃金全体の積極的な引き上げと雇用の確保、労働の尊厳を回復するワークルールの改善、更には道内内需型経済の安定と活性化のため、3月4日、北海道経営者協会をはじめとする道内経済6団体(他、道経連、道商工会議所連合会、道商工会連合会、道経済同友会、道中小企業団体中央会)に対し要請を行った。

冒頭、村田事務局長より「今次の春季生活闘争の課題は、従来から指摘する『格差社会からの脱却』。不安定・低賃金で働く非正規労働者が生活に苦しむ一方、正規社員は長時間労働で疲れ切っている。この社会の歪みを改善し、いかに企業と家計を両輪とした経済構造を実現させるかである」と述べ、さらに「短期利益追求に走る企業倫理観や株主主権主義の台頭が、労働の尊厳を失わせ、不払い残業や偽装請負を助長させている」と述べ、「賃金改善」雇用の安定・確保「非正規労働者の均等待遇」など31項目に及び要請を行った。

要請に対し、経済団体から「良好であった日本経済は、ここに来て石油価格の高騰・原材料費の高騰により、ブレキ状態。原材料の高騰等のコストを価格に転嫁でき

ない状況。賃金改善は個別企業の能力による」と述べ、さらに非正規労働者について「人件費が固定されている中、正規雇用を守ることが第一。多様な働き方・選択肢を求める方々も多くいる」と述べた。

この回答に対し、連合北海道は「非正規の課題は社会全体の問題。『多様な働き方・選択肢』との綺麗な言葉ではあるが、ワーキングプアという、200万以下の収入しかなく、ダブルワークでも食えないという非正規労働の現実など正しい認識を持つべき。



はあるが、ワーキングプアという、200万以下の収入しかなく、ダブルワークでも食えないという非正規労働の現実など正しい認識を持つべき。

ヨーロッパ並みの給付や職業訓練期間等々の失業対策が必要」と述べ、また「働く者に即戦力として成果だけを求める、現在の企業の在り方が問題。同様に短期利益を追求し、下請け・孫請けを締め付けて利益を追求する、そのような事柄を是正しなければならないのではないかと述べ、重ねて、賃金要求の3月内決着への指導を求めた他、要請項目の実現に理解・協力を求めた。

要請は村田事務局長をトップに、武田副事務局長、松浦組織労働局長、中村総合政策局長、上野総務財政局長、越智女性委員会委員長の出席により行われた。

3月14日には高柳会長をトップに同様の要請を道労働局に対し行った。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0304_08shunto_yousei_keizai.html

「3.8 国際女性デー全国統一行動北海道集会」開催 格差是正に向けてさまざまな取り組みを

連合北海道は、3月8日「3.8国際女性デー全国統一行動北海道集会」を自治労会館において開催した。

主催者挨拶で連合北海道男女平等参画推進委員会委員長の



工藤和男副会長は「国際女性デーは1857年3月8日、ニューヨークの働く女性たちが、低賃金・長時間労働に抗議を行ったことが起源と言われる。1908年3月8日には女性たちが賃金改善・労働時間の短縮と参政権を求めて、賃金・労働条件の向上を表すパンと、女性の尊厳・人権の確保を表すバラを掲げデモを行い、以降、女性の政治的自由と平等のために闘う記念日として全国で様々な行動が展開されている。今年は、この行動から100年周年にあたる。連合は1996年から春季生活闘争の統一行動としてこの行動に取り組んでいる。さて連合が春季生活闘争の中心に据える『格差是正』だが、格差社会が注目され始めたのは、男性社会に格差が生じたから。パートや派遣、賃金格差、母子家庭等々の問題を抱え、過去にも、格差の底辺・弱者の多くに女性がたくさんいた。格差社会が注目を集めている今こそ、この格差社会を『根本』からは正させる好機。連合は春季生活闘争などを通じ、『格差是正』に向けた様々な取り組みを行っていく」と主催者挨拶を行った。



その後、東京大

学准教授の「瀬地山角」さんの「笑って考える少子高齢社会」と題した講演を行った。

自身の子育て体験を交え、実践を伴った研究者としてのスタンスは説得力があった。瀬地山さんは、「少子化」を林業にたとえ、「植林と伐採を行っている業者より伐採のみを行っている業者の方が経済効率はよいが、伐採ばかりしていると30年後には破綻を来たす。現在の日本のシステムは、『みんなで労働力を再生産する』というコストの積み立てには目を向けようとせず、出産・育児や介護等を雇用する際のマイナス要因



と考えており、将来のリスクに対応できていない。今後は、男性も育児休業をとることやワークライフバランスを進めていかなければならない」と話した。

次に「女性の働き方を考える」をテーマにパネルディスカッションが行われた。小林千代美さんからは「働く人の二極化現象がある。正規・非正規を問わず均等待遇を保障するとりくみが重要であり、喫緊の課題である」、また、広田まゆみさんからは「『同一労働・同一賃金』となっているか、性による差別がないか洗い出しが必要」、小林郁子さんからは「組合運動を続けること、女性の参画の重要性」等について提起があった。

最後に、国際女性デーの意義や今後の取り組み、さらなる運動の前進を確認する集会アピールを全会一致で採択し閉会した。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0308_womenday.html

支援ボランティアを実施

「ゆうばり市民・生活サポートセンター」と連合北海道

3月20日の春分の日、「ゆうばり市民・生活サポートセンター」と連合北海道の組合員約80人が、夕張市内の「平和運動公園」で雪割りをに行った。「平和運動公園」は、少年野球や少年サッカーなどの全道大会で使われる施設で、市民憩いの場所としても利用されている。昨年までは市が雪割りを行っていたが、今年度はその予算を確保できなかったことから、まったく手付かずの状態だった。一方では、少年サッカーの全道大会が5月3日から開催される予定になっていて、自然融雪のままではコート上の整備や芝の確認が間に合うのか、危ぶまれる状況にあった。

同サポートセンターでは、大会を楽しみにしている子どもたちのためにとの思いで、夕張地区連合・連合空知地協などに要請し、連合北海道が加盟産別に呼びかけるなかで、急遽のボランティア行動となった。

この日は、午後1時から行動開始にあわせて、連合北海道加盟の10産別から約80人が参加し、事務局の作業指

示の後、コート上の雪割りに取り掛かった。深さ60～70cmのこの時期の雪は、大量の水を含んでシャーベット状態にな



っていて、作業もかなり難航したが、参加者のパワーと努力で午後3時過ぎには、所定の作業を無事に終わることができた。同サポートセンターの伊吹代表は、作業終了に当たって「これで、5月3日からの少年サッカーの大会に向けて、コート使用のめどがつきます。連合北海道の各産別のみなさんに感謝します」と、参加者の労をねぎらった。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0320_yubarisaport_josetsu.html

全日程参加者3人など17人が講座を修了

07年度ボランティア講座修了式開催

連合北海道ボランティアサポートセンターは、3月7日(金)に、「07年度ボランティア講座」の修了式を、札幌市内北海道自治労会館で開催した。

修了式当日には、24人の受講者のうち13人が出席し、ボランティアサポートセンターの武田副センター長(連合北海道副事務局長)の挨拶の後、それぞれに修了証書の授与を行った。修了式の最後に、武田副セ



ンター長は「07年度は統一地方選などの関係で9月からの開講になり、あわただしい日程でしたが06年度の修了者に勝るとも劣らない積極的な姿勢で、講師からの評価も高いものがあった。今後とも、日常的なスキルアップとともに、連合北海道ボランティアサポートセンターへのご協力をお願いします」と、締めくくった。

連合北海道ボランティアサポートセンターでは、08年度の「ボランティア講座」を5月から開講することとし、4月から受講者の募集を行う。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0307_volunteer_graduation.html



4・5月の主な動き

イベントカレンダー

- 第2回政策委員会
10日木 13:30 / ポールスター
- 第2回メーデー実行委員会
11日金 13:30 / 自治労会館道民運動
- 日米地位協定の抜本改定を求める中央集会
13日日 14:00 / 新都市ホール
- ユニオンスクール
16日水 10:00 / 自治労会館
- 第7回中央執行委員会
17日木 13:30 / 総評会館
- 第7回執行委員会
23日水 10:30 / 連合北海道会議室

- 第4回地協事務局長会議
23日水 13:30 / 連合北海道会議室
- 道季第1回運営委員会
23日水 15:00 / 連合北海道会議室
- ボランティア講座開校式
25日金 18:00 / 自治労会館

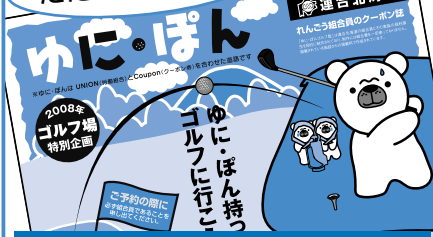
- <5月>
- 第79回全道メーデー
1日木 9:30 / 大通8丁目

組合員特別優待クーポン誌

ゆに・ぽん

2008年
ゴルフ場
特別企画

ただいま配布中



連合北海道ホームページにも掲載されています。
<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/>